



発行所 郵便番号 260-0013
千葉市中央区中央4丁目14番10
千葉日報社
電話 043(222)9211

©2016

8月5日(金)

茂原市を拠点に活動する「房総
発明研究会」の大塚誠一会長(70)
＝同市緑ヶ丘＝が、長生地域でも
深刻な農業被害をもたらしている
イノシシの捕獲装置を開発した。
イノシシが好むというにおいでわ

なに誘い込み、センサーが作動し
ておりの扉が閉まる仕組みで、大
塚会長は「低価格で簡単な構造に
して、捕獲率の高い装置が完成し
た」と話している。

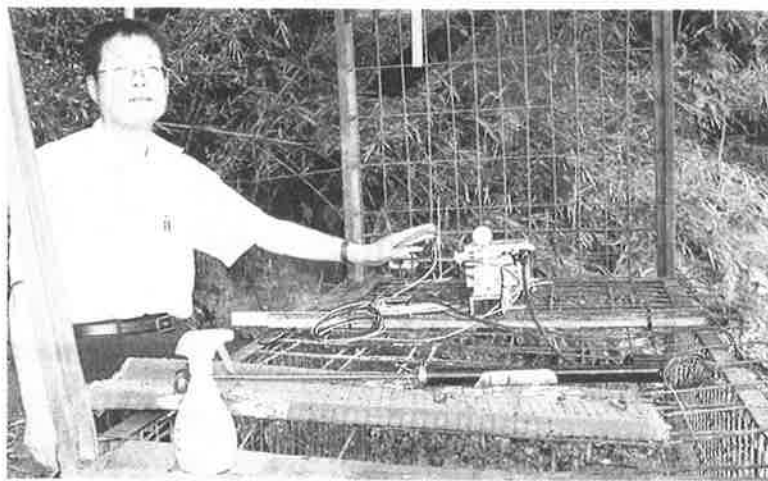
(茂原支局 小野洋)

においで誘い、センサー作動

イノシシ捕獲に新兵器



仕事で機械設計の経
験があり、多くの特許
取得歴がある大塚会
長。昨秋、長柄町刑部
の農業、神崎好功さん
(69)からイノシシの駆
除に関する相談を受
け、装置の開発に着手
した。町内では20
14年度に210頭、
15年度は352頭の
イノシシが捕獲され
ている。稲が倒された
り、サツマイモが食
べられるなどの被害
があり、神崎さんは
「5年ほど前から町内



開発したイノシシ捕獲装置について説明する大塚会長
＝長柄町

全域で深刻な農業被害
が出ています」と指摘す
る。

ミニ芋焼き器

大塚会長は従来から

茂原の大塚さん開発

利用されている「箱わ
な」を活用。一般的に
箱わなは、おりの中に
ワイヤなどを張り獲物
が掛かると扉が閉まる
が、大塚会長はワイヤ
の代わりに赤外線のも
センサーを取り付けた。
センサーが獲物を感知
すると、空気圧シリン
ダーが動き扉が落ちる
仕組みで「ワイヤより
も確実に獲物を検出
し、扉を早く閉めるこ
とができる」といふ。
大塚会長は嗅覚が鋭
いイノシシが好むにお
いの実験も行い、焼き
芋の香りでイノシシを
わなの近くまでおびき
寄せる「ミニ芋焼き器」
も考案。火災が発生し
ない構造で、イノシシ
を呼び込むため、車で
乗り付けやすい場所に
わなを設置することも
できるといふ。

装置の電源は単3乾
電池8本で約1カ月使
える。シリンドーは自
転車タイヤ用のポンプ
で空気を入れれば動く
仕組みになっている。
長柄町で試験的にわな
を設置したところ、2
頭のイノシシの捕獲に
成功したという。大塚
会長は装置の普及に向
け、船橋市の機器製造
会社「西精機」に製造
を依頼。年内に商品化
される見通し。

大塚会長は「既存の
箱わなに取付けられ
るシンプルな構造なの
で保守作業が簡単。ア
ライクマやハクピシン
などの駆除にも利用で
きる。農作物被害を減
らし、農業活性化につ
なげてもらいたい」と
話している。

年内に商品化